活動期間:2024年4月~6月

中津川市

所属議員

松崎 誠

【活動選定項目】 国・県・市町で連携し て取り組むテーマを 設定

- ① カーボンニュートラル(CN)への対応 (エネルギー政策、水素社会、電動車)
- ② 誰もが自由に安心して移動できるモビリティ社会の実現
- ③ 自動車整備士・ドライバーの更なる魅力向上

④ 地域への貢献活動

(例:部活地域移行、ボランティア団体の後継者育成)

- ⑤ 子育て支援策
- ⑥ 行政の DX 推進施策
- (7) 人手不足解消への対応(多様性や多文化共生への対応など)

具体的活動(調査・研究含む)

①ゼロカーボンシティの推進

■廃食用油の回収⇒家庭、店舗、給食調理場等の廃食用油を回収しバイオディーゼル燃料(BDF)を 精製。区長会連合会の協力で、新たに馬籠を加えた8地区が回収。

令和6年6月より市所有ごみ収集車両においてBDF混合燃料の使用開始

○回収実績 (単位: ℓ)4月 5月 6月 合計回収量 429.2 557 集計中 986.2

前期比+139.6L(16.5%増)

②再生可能エネルギーの導入促進

選択し	た項目
テーマ	1

項目	今期件数	累計	補助額(円)
住宅用太陽光発電設置補助 (1万円/kw:上限4kw)	28	50	1, 117, 000
住宅用蓄電池設置補助 (1万円/kwh:上限10kwh)	31	79	2, 531, 000
住宅用燃料電池設置補助(10万円/台)	0	1	0
V2H 設置補助(10 万円/基)	10	11	1,000,000
次世代自動車導入補助(10万円/台)	2	11	200, 000
薪・ペレットストーブ設置補助(工事費 1/3:上限 5 万円)	4	9	200, 000
小水力発電(工事費 1/3:上限 15 万円)	0	0	0
合計 (市単独分)	75	161	5, 048, 000
住宅用太陽光発電(県補助:7万円/kw 上限5kw)	5	7	1, 260, 000
住宅用蓄電池(県補助:工事費 1/3 上限 25.8万)	5	7	1, 270, 000
合計 (県補助分)	10	27	2, 530, 000

【図や活動の様子が分かる写真など】



(m)中津川市 定例記者会見資料 令和6年5月24日

廃食用油を活用した燃料でごみ収集車を走行させます

地球温暖化対策に向けた取り組みの一環として、区長会議合会等と協働し、 家庭や学校約食譲環場などから廃食用油を回収しています。 これを原料とする高純度パイオディーゼル燃料(BDF)を混合した燃料を 使用し、ごみ収集車などを走行させることで、ごみの減量や脱炭素社会の実現 につなげます。

■開始日

令和6年6月3日(月曜日)の収集作業から

■走行場所 ・ごみお

+ごみ収集 (パッカー)車 1合 中津西・南・東地区の一部 ・脊護等回収 (コンテナ)車 1合 旧中津川市内(北部地区以外)の一部

■目的

目的 ・市内で回収された廃食用油(地應)を市内で使用(地油)し、資源の循環やごみの減 量、複写効果ガスの耐減につなげます。

m rts ser

- ・軽油に5%の高純度パイオディーゼル燃料 (BDF) を混合したB5燃料 (奈) を使用します。 乗ります。 乗りま燃料とは、揮弾油等の品質の確保等に関する法律(品雑法)で規定されている 強利規格を満たした燃料のことです。これを使用することで、5%の過程効果ガス
- ン株式会社で製造されたB5燃料を使用します。 ・使用する専項 2分は、マグネットシール「この車は皆さまから回収した廃食用油を活 用して走っています」を貼り付けて支持します。

■その他

CO2を削減することができるB5燃料の価格は、軽油と同等程度です。

今回ごみ収集率など2台で試験的に使用し、ま行などに問勤がなければ、公用率(ディーゼル車)や市内工事現場の車両(重機、ダンプトラック)などへの利用を促進していきます。

ごみ収集車両への BDF 使用開始 記者発表資料

- ① ゼロカーボンシティの推進・・定期的な活動報告会等の実施から周知活動を拡大。
- ② 再生可能エネルギーの導入促進・・促進に向けた補助制度の調査研究、公用車の EV 化。

今後の活動